

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「社会科の学習における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」 白岡市教育委員会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

白岡市立菁莪小学校の取組

○学年・教科名 第5学年・社会

○单元名 わたしたちの生活と工業生産

○身に付けさせたい力 プランニング方略（計画的に学習を進める力）

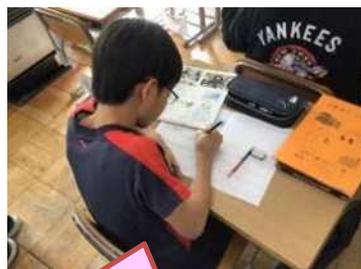
導入

いくつかの企業のCMを観て、それぞれの企業がどんなことを大切にしている企業なのか、その企業が一番伝えたいことは何かを考える。そして児童が「架空の自動車企業の広報部長になり、新しいCMを作成する」という活動を通して、「自動車作りに携わる人々の工夫や努力について解決できるようにする」という単元を貫く学習問題を作っていく。

展開



「友達と取り組む」か
「一人で取り組む」か選
択する



「まずは一人でチャレ
ンジしてみよう」



「グループだと安心
して取り組めるよ」

複線型授業を取り入れ、自身で学習内容や学習形態を選択できるようにする。学習問題に向かって課題解決に取り組むことができるよう、毎時間の取組の目安となるチェックポイントを設定している。学習形態については、「一人で進める」「ペアやグループで行う」「教師とともに調べる」の中から選択できるようにする。調査をするにあたっての資料は、教科書の他に、教科書に記載されているQRコードの映像資料や、「NHK for School」の映像資料、各企業のHPに記載されているものを活用した。

まとめ

自動車の生産やそれに伴う工夫や努力への理解を深めたうえで、循環型社会の実現への思いを、CMの絵コンテを作るという活動を通して、自分の言葉で表現するようにした。これにより、これからの自動車工業について考える力を育てるとともに、持続可能な社会の担い手として望ましい態度を養うことを目指した。完成した絵コンテは、お互いに説明し合うことで、同じ学習内容でも伝えたい事柄や方法が違うことを実感できるようにした。

事例2 白岡市立南中学校の取組

○学年・教科名 第2学年 社会科（歴史的分野）

○单元名 第4章 近世の日本 3節 産業の発達と幕府政治の動き

「思考ツールと思考の可視化で学びを深める生徒主体の授業 一田沼意次と松平定信の政策比較を通してー」

○身に付けさせたい力

- ・複数の資料から情報を読み取り、事象の背景や特色を多面的・多角的に考察し、表現する力
- ・ICT を効果的に活用し、自律的に課題を追究・解決しようとする態度

導入



前時に学習した徳川吉宗の享保の改革を振り返り、その後の幕府が抱えた課題を確認した。その上で、「田沼意次と松平定信の政治にはどのような特色と問題があったのだろうか」という本時の課題を設定し、生徒に学習への見通しをもたせた。

展開

教員の働きかけ

学習用 iPad と学習支援ツール「ミライシード」を準備し、生徒が自律的に探究できる学習環境を整えた。調べた内容を学習支援ツールで提出・共有させ、考えが行き詰まった生徒が他の生徒の意見を参考にできるように、協働的な学びを促した。

生徒の反応

各学力調査の質問調査から、多くの生徒が「考えをまとめて表現すること」に苦手意識をもっていたが、本時の活動では ICT を積極的に活用した。学習用 iPad で主体的に情報を収集し、学習支援ツール上で多様な意見を比較することで、多角的な視点から考察を深め、生徒同士で教え合いながら課題を解決する姿が見られた。

まとめ

授業の最後に、本時で学んだことや新たに生まれた疑問などを学習支援ツールに記録させた。この振り返りは、生徒自身が学びの足跡を自覚するだけでなく、教員が生徒一人一人の理解度や課題を把握し、次の授業の課題設定に繋げるための重要な資料となる。このように、ICT を活用して生徒の思考を可視化し、それを次の学びに繋げるサイクルを意図的に作ることで、生徒の主体的な学びを促すことができた。

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

宮代町教育委員会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

宮代町立東小学校の取組

○学年・教科名 第3学年 国語科

○単元名 まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう

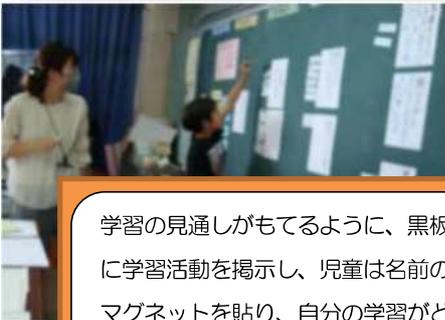
【具体の手立て】

〔★学習の進め方を自ら調整するために〕

- ①個別に本時のめあてを明記することで、自分事として学びに向かう意識を高める。
- ②学び方をゆだね、試行錯誤することに価値をつける。

〔☆自己の学びをもとに、多様な他者と共に学び合うために〕

- ①本時のめあてと振り返りを共有することで、自己と他者の学びを比べ、新たな気づきもてるようにする。
- ②学んだことを生かし、友達と伝え合う場を設定する。



学習の見通しがもてるように、黒板に学習活動を掲示し、児童は名前のマグネットを貼り、自分の学習がどこまで進んでいるかを可視化した。



画用紙、写真、全文シート、付箋等を用意し、児童に選択させ、主体的に教材と向き合う工夫を行った。



自分らしく学びに向かうために、表現の仕方は個人に委ねる。

事例2

宮代町立百間小学校の取組

○学年・教科名 第1学年・算数

○単元名 ひきざん

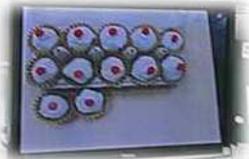
○身に付けさせたい力

- ・ブロック操作や図・式を用いて、減加法と減々法の手順を理解し、確実に計算できる力
- ・「なぜそうしたのか」「次にどうするのか」を言葉で説明できる力
- ・友達と協力して課題を解決する学び合いの姿勢

導入

興味を引くだけでなく意味のある問題提示

おかしが12こあります。3こたべると、のこりはなんこですか。



実物を提示することで、児童の興味を引くと共に、10のまとまりとばらが2つという本時の学習である減々法に繋がる資料の提示。

展開

自分の考えを順序立てて説明をする



ブロックやヒントカードを手掛かりに自分の考えをまとめる。

発表の流れ

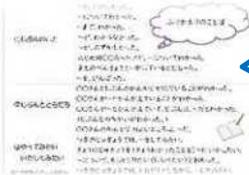
1. 発表を始めます。
2. 私は、_____を履いて、考えました。
3. _____図や式を指さしながら説明
4. 何が質問はありますか？
5. 私と同じ考えの人はいますか？
6. これで私の発表を終わりにします。

よりよい聞き方

- ・話すの方を見ながら聞く。
- ・あいづちを打ちながら聞く。
- ・自分の考えといているところやちがうところを考えながら聞く。
- ・しつもんを考えながら聞く。

まとめ

観点を明確にした振り返り



振り返りの言葉の例を示して自分の思いを適切に表現できるようにする。

発表の流れを参考に、さくらんぼ図やブロックを用いて考えをまとめ、自分の言葉で順序だてて説明をする。



事例3

宮代町立百間中学校の取組

○学年・教科名 3年 英語

○身に付けさせたい力 ・ルーティン化した取組により、「読むこと」「話すこと」の力の向上

導入

- ・单元ごとに新出の単語やフレーズについて小テストやICTを活用したクイズ形式の問題を繰り返し行い、知識の定着を図った。



展開

- ・「読むこと」「話すこと」の技能を向上させるため、次の流れをルーティン化した。
 - ① デジタル教科書で発音を確認しながら各個人で音読 …〔個別最適な学び〕
 - ② 学力を考慮した意図的な英語用ペアでの相互練習 …〔協働的な学び〕
 - ③ 単元の最後に各生徒がALTによる音読チェック …〔個別最適な学び〕
 - ④ 各生徒が音読した内容の要旨をALTに英語でリテリング …〔個別最適な学び〕
- ・表現力を向上させるため、月1回、日常生活や学校行事に関連付けたレポートの作成 …〔協働的な学び〕
- ・場面や対象者を明確に設定した上でのプレゼンテーションを個人・グループで作成 …〔個別最適な学び・協働的な学び〕

まとめ

- ・振り返りシートにおいて、授業ごとだけでなく、单元全体を振り返る記入欄を設け、文型について理解したことをまとめたり、前单元との比較をすることで自分の理解度を確認したりする指導を行った。また、次单元への目標を記入し、見通しをもって学習する姿勢の育成を図った。
- ・授業を受け、さらに家庭学習の充実させたい生徒には、学習用プリントを提供している（約7割の生徒が活用）。

前单元と比較し、何が表現できるようになったかについて記入する生徒が多い。

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

『『令和の幸手スタンダード授業5』と『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』を目指した取組事例』

幸手市教育委員会

令和の幸手スタンダード授業5

子供たちが未来・社会を切り拓くために、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められています。

このような資質・能力は、毎日の授業の中で意図した実践を繰り返しながら、義務教育の中で育成していくことが必要です。

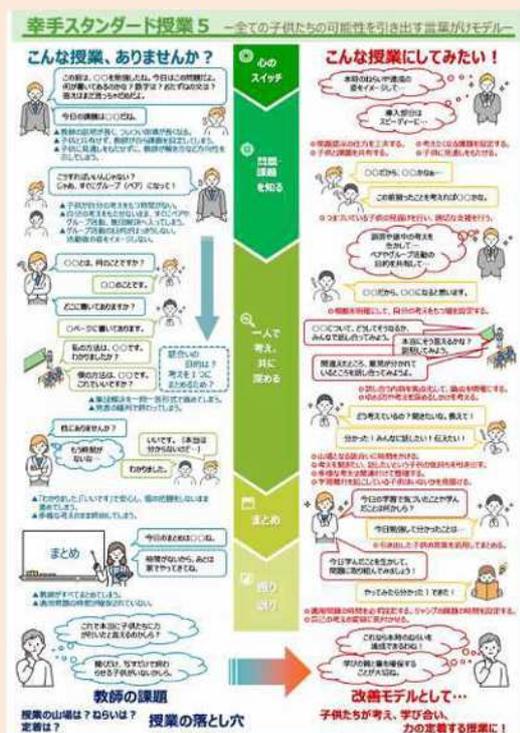
そこで幸手市では、教職員の授業力向上に資するため、以下の資料を作成し、授業等で活用するよう働きかけています。



令和の幸手スタンダード授業5



令和の幸手スタンダード授業5 with GIGA



言葉がけモデル

今後も、日々の授業等で、一人一台の学習者用端末の環境も活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現すると共に、主体的・対話的で深い学びを推進し、「豊かな学びで未来を拓く」教育を目指しています。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

○学年・教科名 小学校第4学年・国語

○単元名 「詩の楽しみ方をみつけよう」

○身に付けさせたい力

- ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる力。
- ・ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる力。
- ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる力。

○教員の働きかけ、児童の反応

- ・ 「単元を児童と教師で共に創る」ことを意識して、授業を展開した。児童に「詩集をつくりたい」という思いを喚起させ、そのための学習計画を、児童と教師で共に立てていった。児童にとって、「自分達で考えた課題・学習計画」となった。
- ・ 詩に関する多くの本を用意し、いつでも読める準備をした。また、いつでも仲間や教師と繋がっているクラウド環境を用意した。一人で・仲間と・教師と学ぶ子が共存する授業が成立し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られた。



事例2

○学年・教科名 中学校第1学年・外国語（英語）

○単元名 「Program7 Research on Australia」

○身に付けさせたい力

- ・ はっきり話をして、必要な情報を聞き取ることができる力
- ・ 簡単な英文から必要な情報を読み取ることができる力
- ・ 簡単な表現を使って相手と伝え合うことができる力

○教員の働きかけ、生徒の反応

- ・ 「オーストラリアの文化を十分理解させた上で単元に入りたい」という授業者のねらいを明確にして、授業を展開した。
- ・ 教科書、学習者用端末、提示装置といった様々な媒体でオーストラリアに関する情報を収集させた。ねらいが明確であるため、調べた内容は違えど、生徒一人一人の関心に沿って学びを深めることができた。
- ・ 意図的に交流する場面を設けるとともに、生徒同士がいつでも関われる環境で授業を展開した。そのため、生徒が互いに助け合ったり、自身の学びを他者に英語で伝え合ったりする様子が頻出した。



令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「多様な学びの促進 ～自立した学習者と学びの促進者を目指して～」

杉戸町教育委員会・杉戸町立杉戸小学校

授業改善のアプローチとその効果

事例1

学年・教科名	第1学年・国語
単元名	じどう車ずかんをつくろう
本時の目標	事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

単元計画表・学習計画表の提示と活用

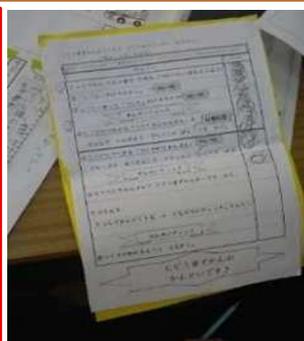
提示

単元の学習内容を示した単元計画表を提示することで、児童は見通しをもって学習に取り組むことができた。



活用

授業の導入で「この時間でどこまでがんばりたいか」を学習計画表に記入させた。自ら目標を設定したことで、児童は意欲的に学習に取り組むことができた。



教師が意図的に編制したグループでの活動



児童が主体的かつ協働的に学習を進め、学びを深めることができるように意図的なグループ編制を行った。紹介したい自動車の希望を取り、同じ自動車を選んだ児童を同じグループにすることで協働的な学びの推進を図った。児童はグループ内でよく声をかけ合い、主体的に粘り強く学習に取り組むことができていた。

自由進度学習に挑戦

自立した学習者の育成に向けて、単元の後半に自由進度学習を取り入れた。低学年ながら、児童は学習計画表を確認し、それぞれのペースで学習を進めることができた。また、教師がファシリテートに回ることで、学習内容をよく理解できていない学力低位の児童のフォローをすることができた。



事例2

学年・教科名	第6学年・社会
単元名	江戸幕府と政治の安定
本時の目標	江戸時代の始まり、参勤交代、鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解することができる。

多様な発展課題による個別最適な学び

11種類の発展課題を設定し、児童が自分自身の興味関心に即した課題を選択できるようにした。

発展課題～あなたは何に挑戦する？～		
(1)歴史ミステリーハンター	(2)歴史インストラクター	(3)ヒストリー漫画家
(4)歴史書大好き読書人	(5)歴史人物コレクター	(6)なってみせる！クイズ王
(7)高みを目指すチャレンジャー	(8)歴史千本ノック	(9)激論！とことん討論部
(10)歴史動画ウォッチャー	(11)報道！歴史ステーション	(12)その他取り組みたいこと

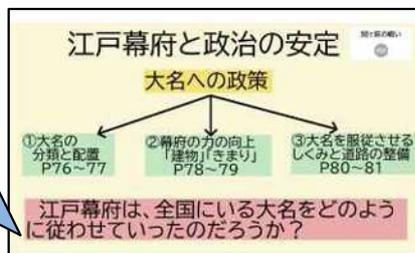
自己調整を促すシナジーシート（単元計画）の活用

得意に選ぶ					
一斉	1時間目	学習内容	学習ゾーン	選んだメタメーター	ミニテスト
マイプラ	1時間目	学習問題作り 学習問題の手帳 学習計画を立てる	一斉		なし
	2時間目	なし なし			なし
	3時間目	ミニテスト なし なし			ミニテスト
	4時間目	ミニテスト なし なし なし			ミニテスト

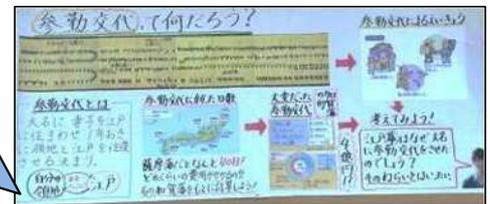
学習内容や自己調整項目（メタメーター）を可視化できるようにした。児童はシナジーシート（単元計画）を参考に、自己調整を図りながら学習に取り組み、学力と共に非認知能力も向上させることができた。

児童の主体的な学びを促す学習環境の整備

ICTを活用した学習カード



学習内容が整理された掲示物



自由に見られる説明動画



AIによる解説付きミニテスト

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

児童の資質・能力の育成に向け、ICT 機器を効果的に活用しながら 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業実践 松伏町教育委員会・松伏町立松伏小学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

現状と課題

1. 児童の実態把握と学習支援・授業展開の工夫

児童の習熟度や学習理解には大きな差があり、一人一人に応じた学習支援や授業づくりが求められる。一方、少人数指導や TT による支援だけでは、すべての児童に十分な指導が届かない場面も見られる。学習指導要領が示す「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を踏まえ、児童の学習履歴や思考の流れを丁寧に把握し、指導方法の改善につなげていくことが必要となる。

2. 学習活動時間の確保とイメージ共有の工夫

協働的な学びを深めるためには、十分な学習時間の確保が不可欠である。一方、ノート指導だけでは、自力解決において一人一人が考えをもつことができなかつたり、ペアやグループの発表、全体での練り上げに時間がかかってしまったりする。また、言葉や文字だけの発表では、共通のイメージをもつことが難しい場面もあることから、タブレット端末や黒板、視覚的な資料などを活用し、考えを共有しやすい環境を整えることが重要である。

3. 振り返りの形骸化への対応

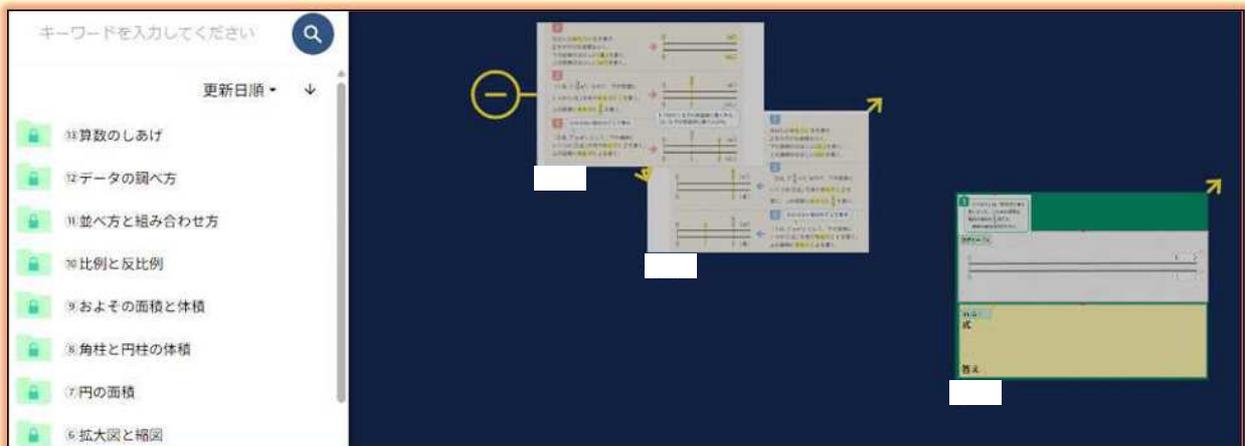
授業の振り返りは時間の確保が難しく、形だけにとどまってしまうことがある。結果として、学習の目標や評価の観点を意識した振り返りが十分に行われていない状況も見受けられる。児童が自らの学びを客観的に捉え、次の学習につなげていくためには、短時間でも焦点を明確にした振り返りの工夫が求められる。

取組の概要

1. 学習形態の工夫（学びの選択）や ICT 機器を効果的に活用し、学習の個性化や指導の個別化を進めることで、一人一人が自分の考えをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。
2. 学習形態の工夫（学びの選択）や ICT 機器の活用により、多様な考えに触れる機会を設けることで、他者の意見との共通点や相違点に気づき、自身の考えを再構築し、より深い学びにつなげる。
3. 振り返りのモデルを作成し、記録・蓄積することで、児童が自ら学習の深まりを実感できるようにするとともに、教師が児童の理解や課題を的確に把握できるようにする。

実践例①

ICT 機器による学習の個性化や指導の個別化



学習支援アプリを活用し、事前に学年や単元ごとのデータを整理しておくことで、児童が前時までの学習内容を自由に振り返ったり、ヒントカードを活用したりできるようにする。必要に応じて、児童自身がヒントカードを利用したり、教師がデータを送信したりすることで、自力解決を支援する。児童は個々の能力に応じて、ノートやタブレット端末を用いて自分の考えをまとめる。

これにより、教師は児童一人一人の学習状況を把握し、個への指導に重点を置くことができる。

実践例②

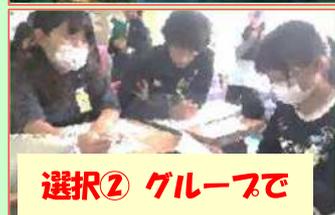
学びの選択による学習の個性化や 指導の個別化

- 第5学年・国語
- 資料と文章のつながりをいかして、環境問題についてレポートを書こう！
- 【教材】「固有種が教えてくれること」「統計資料の読み方」
- 「自然環境を守るために」（光村図書）

- ◆身に付けさせたい力
- ①目的に応じて、資料と文章のつながりから文章を理解する力
- ②自己の現状を振り返り、学習を調整する力
- ◆個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に向けた工夫
- 【学習形態の選択】

問いに対して考える場面やレポートを作成する場面など、様々な局面において、「①個人で ②グループで ③教員と」の三つの学びの形態を選択できるようにした。選択にあたっては、単元の最終的な到達点を示し、その到達に向けて自己の現状を振り返らせた上で、「どの形態を選択すればゴールにたどり着けるか」を考えさせた。

【単元の見直し】
単元のはじめに「国語単元振り返りシート（つかむ・ふりかえる）」を活用し、学習の見直しをもたせた。また、毎時間の終わりに「国語科自己評価シート」を用い、振り返りの観点を明示しながら「どのようなことが身に付いたか」「次時の授業に生かすこと」などを記述させることで、学習調整力の育成を図るとともに、教師側の継続的な見取りにつなげている。

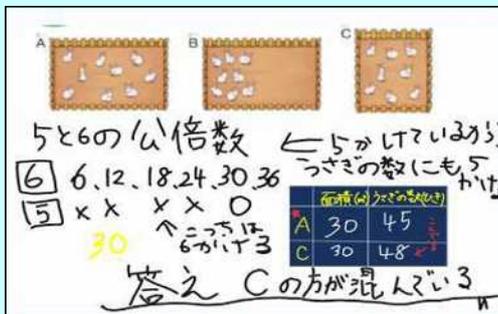


- ①「つかむ」を通し、児童の実態を把握することと同時に、学習するうえで必要な内容を児童に紹介する。
- ②「ふりかえる」を通し、児童の学びの自己調整力の確認と、主体的に学習に取り組む態度の評価を行う。

実践例③

イメージの共有

ペアやグループでの発表の際には、ノートやタブレット端末を用いて互いの意見を共有する。図を用いた説明では、写真だけでなく、必要に応じて動画を撮影しておくことで、思考の過程をより分かりやすく相手に伝えることができる。また、学級全体の意見を常に確認できるようにしておくことで、児童はより多くの意見に触れ、自分の考えを深めることができる。



実践例④

振り返り活動の充実



振り返りのモデルを作成し、ICT機器を活用して蓄積することで、児童自身が学習の深まりを実感でき、教師も児童の学習状況を的確に把握できるようにする。

また、教科の特性に応じて振り返りのモデルを変えることで、より視点を意識した振り返りが可能となる。書写や体育などの教科では、自身の作品や演技を毎回比較でき、次時の課題設定につながるとともに、学習意欲の向上が図れる。理科では、実験結果のまとめだけでなく、他のグループとの比較・検討にも活用でき、思考を深める一助となる。

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

吉川市教育委員会

3つの資質能力
を育む

子供が主役の授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的で対話的で深い学びの実現を目指して、「子供が主役の授業改善」に取り組んでいます。

事例1

児童の「主体性」を引き出す取組

○教科名：小学校「算数」

○単元名：第4学年「計算のきまり」

○本時の目標：ドットの数の求め方を、図や式に表したり、図や式を使って自分の考えを説明したりすることができる。〈思考力、判断力、表現力等〉

○取組の工夫：導入で児童に困り感を味わわせることで児童自身が必要感をもつことができた。「もっと簡単な式にしたい」という考えを児童から引き出し、本時の課題を設定したことで児童の意欲が高まった。児童に選択させる場面を多く設けることで主体的に自力解決する姿が見られた。

導入



共通のゴールを
児童と共有

課題 どうすれば、よりかんたんな1つの式にできるだろうか

展開



○学習方法の選択

・自分 ・先生や友達

○学習形態の選択

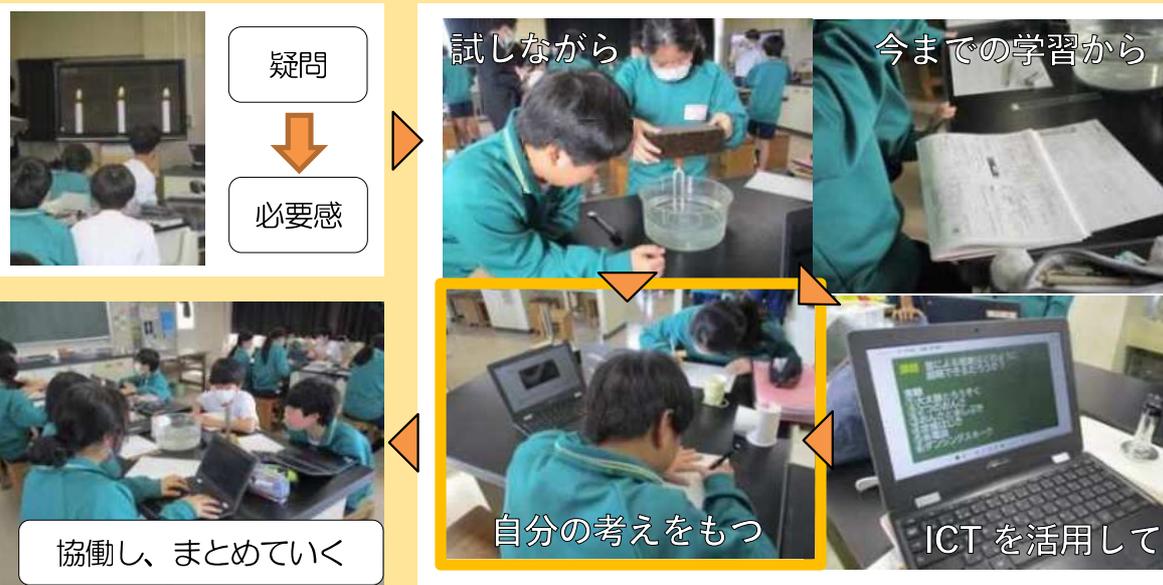
・ノート ・ワークシート

まとめ



事例2 問いを立て学び続ける生徒の育成を目指した取組

- 教科名：中学校「理科」
- 単元名：第1学年「音の性質」
- 本時の目標：音の現象について適切な言葉を用いながら表現することができる。
 〈思考力、判断力、表現力等〉
- 取組の工夫：身近な物体や発音体、音さや糸電話の実習などを導入で扱うことで生徒から疑問を引き出し、生徒自ら学習課題を設定できるようにした。また、「音による現象はどのように説明できるか」を単元のゴールにし、学習した知識を生かして説明をする活動を行った。生徒は、自分の問いをもち、協働しながら最後まで意欲をもって学習に臨む姿が見られた。



事例3 生成AIを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- 教科名：中学校「技術」
- 単元名：第1学年「あると便利な〇〇なちよい足しラックの商品開発をし、PRしあおう」
- 本時の目標：プロンプトを入力し、より適した情報を取捨選択し、活用できる。
 〈思考力、判断力、表現力等〉
- 取組の工夫：材料と加工の技術で作成したラックの製品名について、自分の思いを振り返り、AIとグループの友達からの意見も参考に自己決定する。



令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を 目指した取組事例 について

三郷市教育委員会

指導力の向上・授業改善

～複線型授業の実現・ICTの効果的な活用～

児童生徒の資質・能力の育成に向けて、これまで以上に「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を視点に授業改善を行っています。その手段として、ICTを効果的に活用した複線型授業を推進しています。



三郷市優秀教員表彰・受賞者による授業研究会

今年度は、小学校・算数、中学校・国語の授業を公開。個別最適な学び、協働的な学びを通して「主体的・対話的で深い学び」を実現する、優秀教員の優れた指導方法から多くの学びを得ました。

事例1

○教科名：中学校「国語」

○单元名：第2学年「字のない葉書 向田邦子」

○身に付けたい力：

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにできる。 〈知識及び技能〉
- (2) 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈できる。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしながら、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉



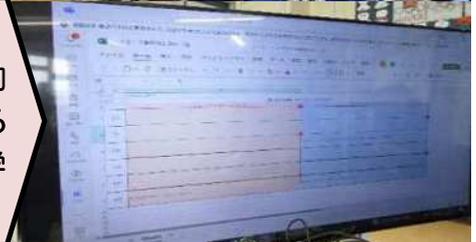
① 協働的な学びの工夫から人物像に迫る

シグソー法的手法を用いて、作品中に登場する人物像に迫った。複数の資料から、生徒自らが選択をして、自身の考えを深めることで、各グループの「教え合い・学び合い」活動を効果的にすることができた。



② ICTの効果的な活用

ICTを用いて生徒へ複数の資料を提示したり、グループ活動において資料の共有をしたりした。ICTを効果的に活用することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体としながら、学びを深めることができた。



事例2

- 教科名：小学校「算数」
○单元名：第2学年「かけ算（1）」
○身に付けたい力：



- (1) 乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質(乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則)を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九(5、2、3、4の段)を構成し、確実に唱えたりすることができる。
〈知識及び技能〉
- (2) 数量の関係に着目し、累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。
〈学びに向かう力、人間性等〉

① 半具体物の活用

課題解決のための自力解決の時間に、児童はおはじきを操作し、ホワイトボードに図を記入することで、考えを深めることができた。

② 学習形態の工夫

自分の考えができた児童はペア、グループで話し合っただけで考えを交流したり、その後自分一人で考えたりと学習形態の工夫を行い、乗法の意味理解を深めた。



教員研修組織 GIGA3・プロジェクト「すすめる研究部」による研究推進

ICT教育推進者が力を合わせて研究を進め、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な充実を図った「複線型授業」の実現を目指しています。

事例3

- 教科名：小学校「社会」
○单元名：第6学年「江戸幕府と政治の安定」
○身に付けたい力：(本時)



- ・大名の配置図や武家諸法度、参勤交代を調べ、その意図を考え、話し合う活動を通して、江戸幕府が大名を支配し、権力を安定させたことを理解することができる。
〈知識及び技能〉

○取組の工夫：授業の複線化

「複線型の授業（学び）の実現を目指して」を研究テーマに「すすめる研究部」の先生による授業を実施した。児童に学び方を選択させ、課題解決に向けて調べる活動を進めた。その後、ICTを活用して、全体共有を行いながら、学びを深めることができた。

